

2025 年度 第 2 回 自己点検・評価委員会 議事抄録

日 時：2026 年 2 月 27 日（金）16:00～16:40

場 所：神楽坂校舎 9 号館 7 階 第 2 会議室における対面 及び Zoom によるオンラインの併用

出席者：倉渕委員長、兵庫委員、樋上委員、関川委員、佐竹委員、植田委員、堂脇委員、菊池委員、照井委員、伊川委員、松本委員、井手本委員、坂田委員、山本委員、坂口委員

[前々回、前回議事抄録確認]

倉渕委員長から、2024 年度 第 3 回及び 2025 年度 第 1 回 本委員会の議事抄録について説明があり、修正等の指摘があれば事務局まで知らせていただきたい旨の説明があった。

[審議事項]

1. 2026 年度 経営系 専門職 大学院 認証 評価 受審 の 受審 に 係る 経営学 研究 科 技術 経営 専攻 点検・評価 報告書 等の 評価 資料 について

倉渕委員長から資料 1 に基づき、2026 年度に経営学研究科技術経営専攻が受審する公益財団法人 大学基準協会による経営系専門職大学院認証評価に係る標記専攻の点検・評価報告書等について、その内容等の精査を行いたいことの説明があった。

<説明の概要>

- ・同協会から 2026 年 4 月 1 日までに関係資料の提出が求められていることから、2025 年 12 月に提出した草案に対するフィードバックを踏まえ、各資料（別紙 1～3）を作成したこと。
 - ・経営系専門職大学院基準は 4 つの大項目で構成されていること。
 - ・大項目に沿って「現状の説明」「点検・評価（長所と問題点）」「点検・評価（長所の伸長・問題点の改善に向けたプラン）」を記述していること。
 - ・各委員から意見等がある場合は 3 月中旬までに事務局へ知らせていただき適宜各資料に反映させたいこと。また、本委員会の承認後、大学質保証推進委員会等での審議や今後の取り組み、関係事務局への内容の確認によって各資料が修正されることを了承願いたいこと。
- 以上を踏まえて審議した結果、原案どおり承認した。

2. 2025 年度 東京理科大学 自己点検・評価 報告書 及び 同部局版 について

倉渕委員長から資料 2 に基づき、2025 年度の自己点検・評価の実施依頼に関して、全学及び各部局における点検・評価活動を記述した自己点検・評価報告書（以下「報告書」という。）が取り纏まったことを受け、その内容等の精査を行いたいことの説明があった。

<説明の概要>

- ・内部質保証システム体系図④～⑤にあたる手続きであること。
- ・全学版（別紙 1）及び部局版（別紙 2）について、それぞれ全学的な観点、各部局の観点で点検・評価した内容及びこれに基づく改善事項があれば記載しており、別紙 1 及び別紙 2 のうち教育支援機構教職教育センターの報告書は内容確定後の 5 月下旬頃に本学ホームページで公表する予定であること。

- ・別紙 1 について、基準 1～3、基準 5～8 以外の基準は部局から提出のあった内容そのままを転記しており、内容の精査はこれから行うことを前提に審議いただきたいこと。また、各委員から意見等がある場合は事務局へ知らせていただき適宜各資料に反映させたいこと。なお、別紙 1 は本委員会の承認後、大学質保証推進委員会等での審議を行うことから、3 月末まで記載内容のブラッシュアップを行う予定であり、内容に修正が入ることを了承願いたいこと。

以上を踏まえて審議した結果、原案どおり承認した。

[報告事項]

1. 学生との意見交換会の実施状況について

倉渕委員長から資料 3 に基づき、2025 年度の自己点検・評価活動において実施した「学生と部局との意見交換会」について、学長室及び各研究科で実施した結果の概要を整理したことの報告があった。引き続き、意見交換会の振り返りを行った。主な意見等は次のとおり。

<意見等>

- ・葛飾キャンパスにおいて施設に関する意見が多く寄せられた印象である。
- ・大学院への進級に向けて先行履修できる科目を増やしてほしいことの要望があったことから、学部内において早々に検討を行い、10 単位から 14 単位に増やす対応を行った。また、TA について、制度としてはありがたいが担当する授業科目によって勤務内容にむらがあることからこれを是正してほしいという意見があった。
- ・国際支援に関する制度の周知を強化してほしいことや、博士課程への進学に関するイベントの他に普段から気軽にコミュニケーションを取れる機会がほしいことの要望があった。
- ・学生からは教育研究の面というよりサービスの面の要望が多かった印象である。教育研究に関する改善につなげるためには意見を言える学生を育てなければならないと感じた。ただし学生集めには苦勞すると思われる。
- ・学生向けに CLASS を通じて様々な情報を周知してはいるものの、どの程度閲覧されているかが懸念される。意見交換会に出席するために DP を改めて確認したという学生もいたようであることから、例えば各取組みに関するアンケートを実施することは、アンケートの実施があるから調べるといった行動のきっかけになる可能性がある。
- ・博士課程への進学に関する取組みについて伝達したところ、これは意味があったと感じた。学内であっても色々な取組みに気がつかない学生が非常に多いため、施策や好事例の周知は行った方がよいと思われる。
- ・施設に関する意見に対して、今後、全学的な施策があればぜひ学部・研究科にもフィードバックいただき、これを通じて学部・研究科の動きも活発になるとよい。
- ・意見交換会で学生から出た意見については、必ずレスポンスをするようお願いしたい。
- ・学生からは個室ブースのニーズがあるようである。
- ・質保証の中に学生を組み込むというのは大学の方針、ひいては社会の方針であることから、今後、本学における適切なシステムを構築するために、他大学の事例を参考に進めたいと考えている。

以上